
名古屋大学における 電子決裁

名古屋大学情報基盤センター
教授・センター長 森 健策

名古屋大学情報推進部情報推進課情報企画係
主任 野村 亮介

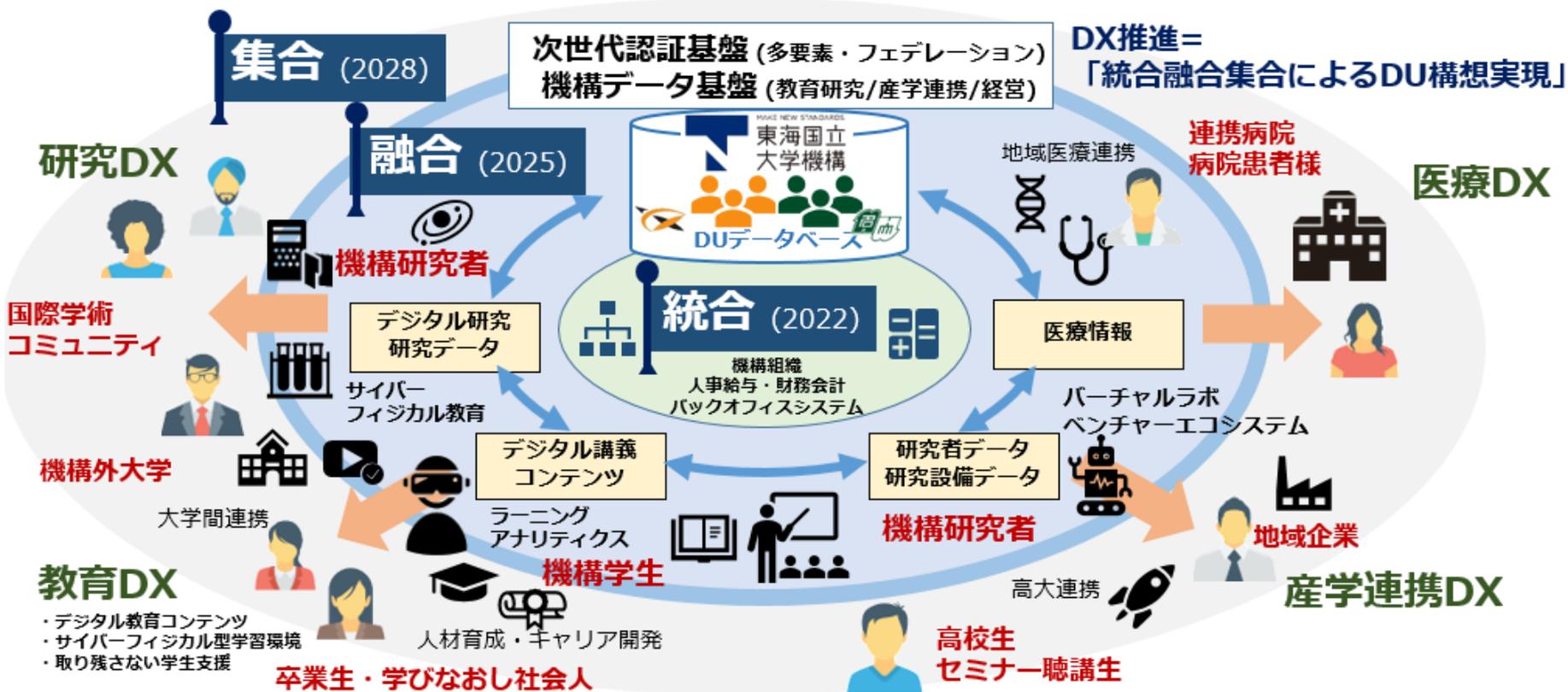
本日は事務職員と教員のコラボによる発表です



東海国立大学機構とDU構想

▶ バックオフィスのデジタル化が核

東海機構100万人デジタルユニバーシティ構想



まずは「電子決裁」の導入

▶ 大学における事務処理

- ▶ 大量の紙への押印
- ▶ 部局長（情報基盤センター長）としての大量の押印
- ▶ 脱ハンコへの動き 学内方針明確化

▶ 現有システムを有効利用した電子決裁

- ▶ 現ワークフローも踏まえたうえでの電子決裁開始

▶ 電子決裁あるある

- ▶ 決裁依頼が来ていることに気がつかず、そのまま放置
- ▶ 紙の方が速い？

▶ そこでTeamsとの連結

- ▶ 決裁依頼がチャットで届く



はじめに

- ▶ サイボウズガールのワークフロー機能を活用
- ▶ ガールは決裁の電子化の議論以前より事務用グループウェアとして導入済
- ▶ 2022/4の全学導入に向け、現在事務局内で試験運用中（2021/4より事務局に限り正式運用開始予定）
- ▶ ガールによる電子化は決裁のみ。法人文書の電子化については現在検討中



管理体制

- ▶ ユーザアカウントは事務職員及び決裁に携わる教員（役員，各部門長）に発行
- ▶ ユーザ情報は人事システムと連携
- ▶ ユーザアカウントは名大IDのCAS認証と連携
- ▶ システム管理は事務組織（情報推進部）が担当

ワークフローによる決裁の流れ（デモ）

- ▶ 実際の操作画面をご覧ください。
- ▶ 説明は野村亮介さんをお願いします

ワークフローの環境構築（デモ）

- ▶ 部署（係）単位でワークフローのフォームを作成
- ▶ 要望があれば特定の決裁専用フォームも作成
- ▶ ユーザの所属情報よりフォームの利用、決裁ログのアクセス権を制御
- ▶ 承認者や入力候補の初期値設定等、簡易なワークフローの編集権限は各部署の庶務担当係に譲渡



電子決裁を含めた法人文書管理について

▶ 第1ステップ（現在地点）

紙による決裁，法人文書管理を電子化するために
必要な器の整備

▶ 第2ステップ（進行中）

決裁，法人文書管理の運用，制度そのものの見直し。
より洗練された電子管理ができるよう合理化

▶ 第3ステップ（将来構想）

第2ステップで合理化された運用をベースに
法人文書を一元的に電子管理できる環境
（システム）構築を目指す

